

西光

第 17 号

百橋山 西光寺

高岡市京町一〇―二五
電話 (〇七六六) 二二―二九七一
FAX (〇七六六) 二二―三二七〇
平成十五年九月二十四日

西光寺阿弥陀堂落慶法要

まばゆいばかりに新築相成った西光寺阿弥陀堂及び庫裡の落慶法要は平成十五年五月三十一日(土)と、六月一日(日)の両日にわたり、厳かな中にも賑々しく厳修された。台風の接近や雨模様の天候の心配をよそに、稚児参加者は二百五十名を超え、講演会や尺八演奏・越中おわらや獅子舞奉納に、遠近を問わず、老若男女を問わず、二日間参加者の人波の絶えることなく、阿弥陀堂の落慶に会わせて頂く有り難いご縁を共に慶んだ。そして、仏前を香華と金蠟燭の燈明で荘厳し、声高らかな読経、声明の轟く阿弥陀堂では、本願念仏の教えに集う大勢の寺族・門信徒の見守る中、西光寺の永久の歴史の新たな幕開けを高らかに宣言した表白が読み上げられた。

『表白』

謹敬白 大恩教主釈迦如来 大慈願主弥陀如来 観世音菩薩 大勢至菩薩 阿難尊者 舍利弗尊者など、諸々の聖衆 並びに弥陀の浄土を讃歎する東西南北上下の諸仏 浄土の念仏を説きたもうた印度の龍樹菩薩を始め、中華の善導大師、日本の源空法然上人などの先師先達や善知識、我ら凡夫のために信心為本の教えを確立された祖師親鸞聖人、さらにすでに極楽の浄土に往生化生した先輩先祖に、そしてここに集う門信徒一同に申して曰く。

今将に南閩浮州扶桑朝越中国高岡市京町の大伽藍において、門信徒一同一心誠意を以て、ここに光顔巍巍たる本尊阿弥陀如来に香華燈明を捧げ、西光寺阿弥陀堂及び庫裡の落慶の法要を厳修せり。

夫れ惟れば、百橋山西光寺は平安朝の御代、清和源氏の末裔源三位頼政公を始祖とし、山城国愛宕郡百橋谷に天台宗寺院として創建されり。やがて、中世には越中国射水郡守山村字百橋に伽藍を移し、小矢部川・庄川の流域及び、二上山の両山麓にまたがる地域に教線を広げたり。室町時代文明五年、時の住職証光は本願寺八世蓮如より西光寺の寺号と釋証光の法名を下賜され、それまでの天台宗から浄土真宗に改宗す。以来その系譜は二十八代を数えるに至れり。その後江戸時代寛文年間には岩坪村に移転し、さらに天保年間には現在の地に伽藍を構えり。

よって旧本堂は江戸時代以来の建物で、二百年以上の星霜を経て老朽化が著しく、それを危惧した門信徒の間より伽藍復興の声にわかに上がり。爾来門信徒一丸となって勧進に走り、有縁の人の協力も得て、また大工棟梁を始め、各分野の匠の技を結集し、平成十四年九月に竣工するに至れり。足かけ五年の歳月の末、今日ようやく落慶の日を迎えるに至れるは、正に白昼夢の如く、貴き極みなり。只々仏恩鴻徳に報謝の思いあるのみ。

本願念仏の教えの道を照らす、輝ける阿弥陀堂は門信徒や有縁の人々一同の心の拠所、極楽浄土もかくやらん。門信徒一同と共に、誓いを新たに、信心に努め、開法道場としての西光寺の一層の興隆を念ず。ここに門信徒一同、有縁の人々一同、関係者一同の安寧和議を祈り奉る。

南無阿弥陀如来
南無観世音菩薩
南無大勢至菩薩
南無阿弥陀仏

西光寺第二十七世釋公然
平成十五年六月一日敬白

《阿弥陀堂落慶法要日程》

五月三十一日(土)

午後一時

西光桜贈呈式

午後二時

稚児行列

前住年忌法要

おかみそり(帰敬式)

くす玉割

満願餅撒き

午後五時 文化講演会

講演「聖徳太子と親鸞」

南谷恵敬師 大阪・四天王寺 施行院住職

講話「私たちのお寺」 四天王寺学園理事、四天王寺国際仏教大学教授

霧野雅磨師 八尾・聞名寺住職

午後七時 前夜祭

尺八演奏 吉田修宇山(都山流大師範)

越中おわら 聞名寺風の盆講中

六月一日(日)

午前十時

功労者感謝状贈呈式

物故者追悼法要

おかみそり(帰敬式)

午後零時 阿弥陀堂落慶法要

鐘つき・散華

獅子舞奉納 堀田青年団

稚児行列

落慶満願法要

くす玉割

満願餅撒き

午後五時 祝賀会 商工ビル・大ホール

開会挨拶 落慶法要実行委員長 向井英二

祝辞 大工棟梁 酒井仁義

鏡割

乾杯発声 惣総代 筏井 洋

民謡 城峰会・松博会 宮下枝里子ほか

祝辞 成美町二丁目自治会長 幸正 哲

祝辞 高岡市議会議員 四十九清治

万歳 総代 川田正信

答礼挨拶 西光寺住職

新阿弥陀堂建立日誌（続）

平成十四年十二月十五日建設専門委員会（↓落慶法要実行委員会へ）
平成十五年一月十一日世話人会・落慶法要実行委員会第一回 新年会

三月三十日第二回落慶法要実行委員会 懇親会

五月十日総代会

五月十二日―三十日各役割部会毎の会合、寺方打合せ

五月三十一日・六月一日阿弥陀堂落慶法要

七月二十一日総代会、専門委員会

八月七日世話人会（落慶法要実行委員会解散） 懇親会



阿弥陀堂落慶



稚児行列 ―落慶法要実行委員長 向井英二―



稚児行道



散 華



導師表白



獅子舞奉納 一堀田青年団一



くす玉割

各慶祝賀会



祝賀会・万歳 総代 川田正信



満願餅撒き

《お知らせ》

有り難い仏縁に恵まれた西光寺阿弥陀堂落慶法要の二日間にあたる全記録を収めたビデオ（全4巻）があります。ご覧になりたい方は、お申し出下さい。無料でテープを貸し出します。第1巻西光桜贈呈式、稚児行列、前住年忌法要―満願餅撒き、第2巻文化講演会―前夜祭、尺八演奏・越中おわら、第3巻功労者感謝状贈呈、物故者追悼法要―獅子舞奉納、稚児行列、満願法要―満願餅撒き、第4巻祝賀会。

《行事予定》

一月一日―三日修正会	
一月八日 法話会（初お講）	〔講師〕 大宝寺 龍本茂樹師
三月八日 法話会	〔講師〕 大宝寺 龍本茂樹師
四月八日 法話会	〔講師〕 光専寺 葉室俊和師
四月 桜會	
五月八日 法話会	〔講師〕 大宝寺 龍本茂樹師
六月八日 法話会	〔講師〕 光専寺 葉室俊和師
七月八日 法話会	〔講師〕 大宝寺 龍本茂樹師
八月七・八日 祠堂経法会	〔講師〕 光専寺 葉室俊和師
八月十四・十五日 お盆（旧盆）	
九月八日 法話会	〔講師〕 大宝寺 龍本茂樹師
九月 観月會	
十月八・九日 報恩講	〔講師〕 大宝寺 龍本茂樹師
十一月八日 法話会（終お講）	〔講師〕 光専寺 葉室俊和師
十一月二十七日 御正忌	〔講師〕 願浄寺 嶼秀誠師
十二月三十一日 除夜勤行・除夜の鐘	

《越中おわら》

（前囃子）	唄われよ わしゃ囃す
	あなた百まで わしゃ九十九まで
	ともに白髪の オワラ 生えるまで
（後囃子）	来られた 来られた ようこそ来られた
	来られぬ中から ようこそ来られた
（前囃子）	唄われよ わしゃ囃す
	南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
	南無阿弥陀仏 オワラ 阿弥陀仏